

「世界の粉体事情」を企画して

特集担当編集委員 伊藤 隆政

食品、医療、機械、その他の一般製造業の基礎を担う粉体技術およびその関連事業が、世界の景気から受ける影響は大きい。不況による製造業の業績低迷が続き、需要・消費の回復が待たれて久しい中、今一度、世界各国の粉体事業に対する経済的動向や技術的進歩を把握し、日本の粉体技術が世界水準を維持・牽引し続けていくための情報提供の場として、「世界の粉体事情」なる特集を企画した。

国別の粉体事情の紹介として、日本と強い関わりを持つドイツ、中国、アメリカについて以下のように執筆頂いた。

テクノファーム・アクセス株式会社 仙名 保氏には「ドイツにおける粉体工学」と題して、ドイツにおける粉体工学の現状を歴史的な流れや近未来の予測などを含め、研究拠点の紹介を中心に概説して頂いた。

宜興清新粉体機械有限公司 陳 小南氏には「中国における粉体工業事情」と題して、筆者ご自身が経験してきた中国に進出する日系企業のご苦労と、中国内の粉体事業の傾向を分かりやすく解説して頂いた。

トリプルエーマシン株式会社 石戸 克典氏には、「海外の粉体技術～米国を中心に～」と題して、米国の粉体工業の状況を経済・技術など多角的に解説いただき、日本企業が世界へ事業を拡大するための考え方を解説して頂いた。

また、各国の粉体協会および企業の活動を把握するため、過去一年間に行われた数多くの国際粉体展の中から第二回北京粉体工業展、上海粉体工業展 2008、ACHEMA 2009、ニュルンベルク粉体工業展の様子を以下のようにご報告頂いた。

財団法人ホソカワ粉体工学振興財団 辻 裕氏には、「第2回北京粉体工業展に参加して」と題して、2009年4月に行われた同展の様子を、(社)日本粉体工業技術協会との交流関係などを含めてご報告頂いた。

社団法人日本粉体工業技術協会 辻 義廣氏には、「上海粉体工業展2008に参加して」と題して、2008年12月に行われ、新たにニュルンベルク・メッセ・チャイナ(NMC)が主催者として名を連ねた同展の様子を、現地での当協会の活動内容とともにご報告頂いた。

独立行政法人産業技術総合研究所 伊ヶ崎 文和氏、株式会社新造粒技術研究所 西井 和夫氏、大川原化工機株式会社 根本 源太郎氏らには「ACHEMA 2009に参加して～全般的状況、粉碎および粒子径計測技術、～造粒技術、～乾燥技術」と題して、化学、環境保護およびバイオ技術に関する世界最大級の同展の様子を、同展全般について、さらに幾つかの個別技術(粉碎、粒子径計測、造粒、乾燥分野)の展示概要についてご報告頂いた。

社団法人日本粉体工業技術協会 菊島 和宜氏には「ニュルンベルク粉体工業展に参加して」と題して2008年9月末に開催された同展の概要、歴史、当協会との関わりについて解説・ご報告頂いた。

また、(社)日本粉体工業技術協会の世界に向けた活動を知っていただくため、ACHEMA 2009開催に合わせて行われた国際粉体技術フォーラムの様子と、微粒子ナノテクノロジー分科会、粒子加工技術分科会、晶析分科会の様子をご報告させて頂いた。

愛知学院大学 川島 嘉明先生と大川原化工機株式会社 大川原 正明氏には、「ACHEMA 2009における国際粉体技術フォーラム開催報告」と題して、ACHEMA 2009で同フォーラムを開催するに至った経緯とその実施内容を報告頂いた。

東京農工大学大学院 神谷 秀博教授には、「微粒子ナノテクノロジー分科会、海外開催報告」と題して、ACHEMA 2009に先立ち開催された第1回(会場：フランス・コーニング社)、第2回(会場：ドイツ・マックスプランク研究所)の同分科会の様子をご報告頂いた。

株式会社徳寿工作所 谷本 友秀氏には「粒子加工技術分科会 欧州視察リポート」と題して、ACHEMA 2009の参加を兼ねて行ったスイス・バーゼル近傍における同分科会の製剤関連設備の見学会についてご報告頂いた。

日本化学工業株式会社 山崎 康夫氏には「晶析分科会 海外開催報告」と題して、第1回分科会としてBASF社において開催された、シンポジウムと見学会の様子をご報告頂いた。

今回の特集により、世界各国の企業・研究所の事業・研究内容、その他の活動を再認識し、日本の粉体技術の発展に関わる人々の学習・業務の手助けになれば幸いである。